



新村8年	人口	世帯数
令和8年	3月1日現在	戸数
世帯	1,340	1,490
男女	1,569	1,569
合計	3,059	3,059

誰も取り残さないまちづくりを目指して

2月15日、中央公民館(Mウイング)を会場に「未来へつなく私たちのまちづくりの集い」が開催されました。参加者は各分科会に分かれて、様々な視点から、まちづくりについて協議・検討を行いました。

テーマに、新村地区のプチ送迎ボランティアが先行事例として、立ちあげのきっかけや、現状に至るまでの過程、今後の課題などの発表を行いました。質問コーナーでは保険の内容や、車両の契約についてなど、実務に踏み込んだ質問も多く、参加者の関心の高さが伺えました。

新村地区プチ送迎ボランティア事務局より

平成24年11月、会員10数名、利用者2名で「プチ送迎ボランティア」の活動を開始しました。当初は、当時の町会連合会長の私有車が使われました。この活動は11年4ヵ月にわたり継続されており、令和7年度は運転者14名、利用者24名、賛同者48名の計86名が登録。現在は女性運転者1名も活躍中です。安全装置の



新村地区 健康講座 16名参加

厳寒の1月27日、あたらしの郷協議会学びの友部会及び、いきいき部会共催の健康講座を開催。今年も松本大学(スポーツ健康学科)の山本准教授を講師に、学生2名の補助者とともに実施いたしました。

まず公民館で、運動機能が低下することによって自立した生活が送れない可能性が高くなることについての説明を聞きました。その予防としての歩行の重要性について、体操も交えて受講しました。その後、松本大学第2体育館にて、ロコモティブシンド

- ①胸を張ってまっすぐに歩く
- ②歩幅を広く
- ③最も大切なこととして腰を回して歩く

ローム対策として、正しい歩き方
 ①胸を張ってまっすぐに歩く
 ②歩幅を広く
 ③最も大切なこととして腰を回して歩く
 の指導を受けました。そして、体育館の壁際の周回歩行を行いました。先ほどの歩行に加え、壁際にフワフワするマットで「足元柔軟歩行」や10cmから40cmの4段階の跳び箱を低い順に離れた位置に置き、その上を歩く「段差歩行」を行いました。最後に体育館を出て、階段の昇降訓練(1階から3階)をしました。決して無理をしないようにと注意を受けながらの1時間超の楽しい和やかな雰囲気の中で体験しました。正月ボケの体にはやや疲労を感じましたが、参加された方々の気持ちは、参加された方々の気持ちが、若さに敬意を表し、山本准教授と補助学生に改めて感謝と御礼を申し上げます。皆様お疲れ様でした。



腰の回転を意識して

穂束八

私が投稿するのもこれが最後になるが、実を云うと学生として参加を依頼された時はほぼ二つ返事の形で参加してしまっただ。どんなことをやっているのか、記事の書き方などもわからないまま、手探りの状態で参加していた。しかし、これまで参加する中でこの公民館報は、地域における長い営みを記録し続け後世に「残す」役割を担っていることだ。▼記録として残すことで、その時の営みをどんな時代でも確認できる。しかし、記録は残されなければ記録にならず、振り返ることも思いつくこともできない▼地域に住む人が自らの手で記録を残すことは、その地域に対して何かしらの感情や思いがなければできないと考えられる。しかし、近年は少子高齢化に伴う人口の減少などもあり、「残す」使命を果たすべき人が減っている▼地域活動への関心の希薄化、住民同士の「つながり」の減少が進む中でどうやって記録を残していくのか。記録の「残し方」と「地域の人

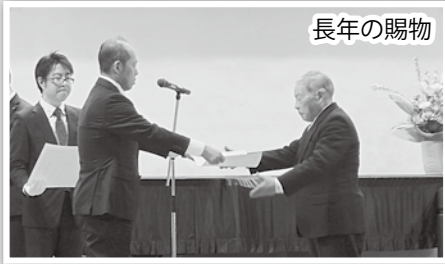
の思い」をどのように伝えていくか。公民館報の使命は大きい。

松本市景観賞 「奨励賞の受賞」



「松本市景観シンポジウム」が2月7日、あがたの森文化会館で行われました。景観フォーラムでは「人が集まるまちづくりを考える」をテーマに、和田寛(株)ズクトチエ共同代表の基調講演と各地域の実例がパネルディスカッションで紹介され「まちづくり」と「観光」が同じ方向性で活動することで良い相乗効果が生まれるとの必要性を感じました。

当日はシンポジウムに先立ち「松本市景観賞」の表彰式が行われ、北新西町会の長岡壽さん(89歳)が「屋敷の四



長年の賜物



旧家のたたずまい

方を囲む生垣・匠の技の伝承」として、奨励賞を受賞され、次のように記されました。
身内のものに「本家の生垣は、きれいに手入れしてあるし、最近、百年以上たった南の門は使える古材は全て使い昔の姿に復元してもらった。この機会に応募したら。」と薦められました。今迄周囲の生垣の手入れは職人に頼らず家族でやってきました。私の前は父や祖父が行い、子供の頃にはすでに形が整っていました。私が二十歳の時に植えたと生垣も70年も経つと立派に成長しています。県外に住む身内の者は、「田園風景によく合うね」と言います。松本市長さんから頂いた賞状に「あなたは松本の風土と歴史的環境に調和した景観の形成に貢献されたことが認められました。」とありました。
通る人や暮らす人にとってなまこ壁の母屋と共に新村の原風景として受け継いで欲しいと思います。

音楽を通して、 思いを伝える



会場が一体に

2月14日、新村地区人権啓発推進協議会主催で楽団ケ・セラのコンサートが新村公民館で開催され、45名が参加しました。

楽団ケ・セラは障がいのある方々が音楽を通じて自立できるよう支援を行う団体で、小中学校や公民館などで、年間約40回の演奏活動を行っています。

当日は、懐かしの曲も含めて全11曲が演奏されました。演奏者の心のこもった演奏に、参加者は手拍子をしたり、振り付けと一緒に踊ったりと、大いに盛り上がりました。

将来の君は

2月14日、15日に松本大学で開催された「あるぶすタウン」では2日間で延べ約120名の子どもたちが参加してくれました。地元企業や地域の団体、学生主体のブース、あわせて26の職業体験やものづくり体験ができるイベントを開催することができました。

子供たちは、元気づくあるぶすタウンの中へ働きに行き、働いて独自通貨「YUME(ユメ)」をもらった後は五平餅やたい焼き、スー



撮影体験モデル

パーで買い物を楽しみながら過ごしていました。また、アカデミーブースではドローン体験、フラワーアレンジメント体験などを学んでいました。当日までの準備では企業の方、関係者との打ち合わせ、会場設営などで忙しくなりましたが、子どもたちの笑顔で開催して本当に良かったと思えました。企業の方と子どもをつなぐことができたと思えます。来年度に向けてより良くできるように工夫していきたいです。

第38回 冬季室内競技大会



狙って狙って～

2月1日、芝沢体育館にて初めて午前中のみの町会対抗とし、約70名が参加しました。昨年までの綱引きは、参加町会減少のため、今年から「モルック大会」に変更し、7町会が参加しました。モルックとは、木の棒を投げてピンを倒し、50点を先取したチームが勝者になります。

「おかしな卓球大会」も、6町会総当たりで対戦しました。住民同士の交流もでき、試合中はあちこちから、感嘆や笑いが絶えず、賑やかな大会になりました。

大会結果

◇モルックの部(7町会参加)

優勝：北新中
準優勝：上新西
3位：下新北

◇おかしな卓球大会(6町会参加)

優勝：南新東・山王
北新中・下新北

準優勝：東新
3位：上新西